

様式第3号(第7条関係)

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 平成28年度第3回水戸市協働推進委員会
- 2 開催日時 平成29年3月6日(月) 午後1時30分から午後6時10分まで
- 3 開催場所 水戸市役所本庁舎南側臨時庁舎 大会議室
- 4 出席した者の氏名
- (1) 委員 金本 節子, 大野 覚, 桧山 孝, 金成 滋, 鹿倉 よし江,
石川 浩之, 斎藤 寿子, 羽石 英司
- (2) 執行機関 【市民生活課】課長 柏 直樹, 副参事兼課長補佐 笠原 昭彦,
協働係長 橋崎 真哉, 主幹 沼田 望
【環境課】保全係長 佐藤 倫子, 主事 近藤 雄希
【公園緑地課】課長補佐 鶴井 昭宏
【観光課】事業係長 佐藤 健太, 主事 川野邊 俊
【商工課】市街地活性係長 吉田 友洋, 主幹 肥後 悠一,
主事 杉本 祐司
【農政課】課長補佐 後藤 俊之, 企画係長 稲葉 大貴
【文化交流課】文化交流係長 大森 明彦, 主幹 安見 知浩
【保健センター】保健師 高安 克子
【高齢福祉課】高齢福祉係長 美齊津 諭代, 主幹 倉川 健一
- (3) その他 渡里湧水群を活かす会
株式会社 日宣メディックス
グローバルフェスタいばらき実行委員会
L i r k (リルク)
特定非営利活動法人 エコ・グリーンいばらき
一般社団法人 茨城県健康生きがづくり協議会
グローバルキグループと支える会
あっとまま
株式会社 I F P
- 5 議題及び公開・非公開の別 協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」に係る平成29年度
提案事業の公開プレゼンテーション(公開)

全体審議（非公開）

6 非公開の理由

（全体審議）

- ① 公にすることにより，当該団体の権利，競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあるため。
- ② 公にすることにより，率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ又は不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれがあるため。

7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 16人

8 会議資料の名称 平成29年度提案事業の概要

9 発言の内容

【公開プレゼンテーション】

事務局	(開会の挨拶，進行についての説明)
委員長	ただ今から，平成29年度水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」の公開プレゼンテーションを始める。提案のあった9事業について，提案団体と市担当課から，事業の概要，協働による効果，役割などについて発表していただく。
提案団体 環境課 公園緑地課	〔発表：渡里湧水群の保全と活用〕
委員	これまでの2年間で，順調に整備が進んできたことは素晴らしいと思う。29年度も実施となれば，本提案制度を活用した事業としては最終年度となるが，30年度以降も事業を継続していくことは可能か。
提案団体	当初の目的であるあぜ道やホタル用の池について，整備を進めることができ，当初の目的は達成されたと考えている。整備された状態を維持するだけでも大変であるが，引き続き，地道に整備作業を行っていきたい。また，これまでの2年間の活動実績もあるので，本事業を継続していくことは可能と考えている。
委員	提案書中に，関係団体とのネットワークについての記載があったが，具体的にはどのような団体とのネットワークが構築されつつあるのか。
提案団体	地元地区会，活動に参加してくれている茨城大学や常磐大学の学生ボランティアとのつながりができている。また，渡里湧水群を活かす会としても，ホタルに関する活動を行っている他団体の活動に関わっている。
委員	関係団体とのネットワークについては，今後も維持できるか。

提案団体	今後も維持できるものと考えている。
委員	ホームページを事前に拝見させていただいたが、非常に良くできていると思う。さらなる情報発信を期待している。整備にあたり、歴史的遺産である台渡里官衙遺跡群との関連については、どのように考えているか。
提案団体	立地的にも、台渡里官衙遺跡群とは隣接しており、遺跡群と関連させていきたいと考えている。しかしながら、公園整備については、土地の管理関係等の問題もあり、行政がいつ着手するかにも関わっており、まだ先になるものと思われる。
委員長	ホタルはどのくらい出現するのか。
提案団体	昨年、一昨年は、それぞれ少なくとも十数匹のホタルの生息を確認した。より多くのホタルが生息できるよう、28年度中にホタル用の池を整備した。
委員長	将来的に、ホタルの鑑賞会などを実施する予定か。
提案団体	地元住民を対象にした鑑賞会は既に実施している。
提案団体 観光課	〔発表：谷中二十三夜尊骨董市賑わい創出事業〕
委員	格の市を開催する際、駐車場はどのように確保しているのか。また、保和苑周辺地域の活性化のために新たな企画提案はあるか。
提案団体	茨城県生涯学習センターの跡地を駐車場として借用している。格の市当日は、駐車場に警備員を配置し、会場である保和苑へ誘導している。駐車場の周知については、まだ十分でないと思うので、周知活動を行うなど、周辺の混雑回避に努めたい。 本事業の事業内容については、基本的に骨董市を中心としたものを考えている。私見であるが、今後は周辺市町村との協働も検討していきたい。例えば、販売ルートが確保されていない笠間焼の作家さんの作品の販売などを格の市で行うことができないかと考えている。
委員	28年度の出店店舗数の実績はどのくらいか。
提案団体	それぞれ45～60店舗が出店した。保和苑内の利用できる面積の中では、60店舗程度が限界であり、出店者ごとの区分けを行う際に調整をして対応している。
委員	29年度の収支計画書を見ると、収入における出店料と補助金の割合にあまり差がないようであるが、本提案制度の活用期間終了後の事業運営について、どのように考えているか。
提案団体	民間の協賛企業等を募り、事業を継続していきたいと考えている。
委員	協働事業として実施して、行政として感じられた成果はあるか。

観光課	<p>保和苑で2か月に1度、骨董市を開催することで、地域に人が集まり、地元住民が盛り上がりつつあり、地権者である桂岸寺を筆頭に、格の市を継続してほしいとの声があがっている。</p> <p>市としても、保和苑周辺でさまざまな事業を実施しており、格の市とそれらの事業を連携させることで、ロマンティックゾーン全体、さらには周辺地域にも集客を図ることができるのではないかと手ごたえを感じている。</p>
委員	<p>具体的には、どのような形で協働していたのか。</p>
観光課	<p>28年度は、提案団体が骨董市の企画運営や出店者との連絡調整を行った。水戸市は、地元関係機関との調整等をおこなった。</p>
委員	<p>毎月、保和苑内で開催されている、ぴんころ地蔵さんご縁日との連携は考えているか。</p>
観光課	<p>ぴんころ地蔵さんご縁日は、毎月23日に開催しており、その開催日が、来場者にだいぶ浸透しているところである。</p> <p>格の市の開催日については、出店団体との調整の中で、第二土曜日に開催するということが決まったことがあり、時期的に同時開催が難しいということが1点ある。同時開催することで、集客を図ることは可能かもしれないが、ひと月に開催するイベントの数が2回から1回に減るということで、集客が落ちてしまうという懸念もある。</p> <p>2つのイベントの連携については検討していきたいが、現段階では想定していない。</p>
提案団体 商工課	<p>【発表：外国人が買い物し易い商店街づくり】</p>
委員	<p>昨年開催されたグローバルフェスタで提案団体の代表者と話した際、近隣の商店会からなかなか協力を得られないとの話があった。29年度は、商店会へどのようなアプローチをしようと考えているか。</p>
提案団体	<p>今年度の事業内容の一つである「外国の商品や料理が楽しめるマップ」の作成を行っていく中で、個別の店舗とのつながりができつつある。そのつながりを通じ、各店舗にグローバルフェスタへの積極的な参加を呼びかけたいと考えている。</p>
委員	<p>本提案とは別に、外国人を対象とした提案がもう一事業あるが、その事業と連携することは想定しているか。</p>
商工課	<p>本提案は、外国人が買い物し易い商店街づくりを進め、中心市街地の活性化を図ることを目的としている。可能性はゼロではないが、それぞれの事業の目的が異なるという点を考慮しながら、検討したいと思う。</p>
委員	<p>本提案制度を活用した事業としては、29年度が最終年度となるが、その後の事業展開についてはどのように考えているか。</p>
提案団体	<p>グローバルフェスタ開催時に使用するテントの借上に係る費用が、事業費の大半を占めている。市町村によっては、テントを無償で貸与してくれ</p>

	<p>るところもあるという情報もあるので、引き続き、情報収集を進め、コストダウンをはかりたい。</p> <p>また、会場についても、水戸駅北口にあるビルの空きスペースを借用できる可能性がでてきており、グローバルフェスタを、テントを使用する必要がない屋内で開催することも検討している。内部努力でコストダウンをはかるとともに、出店料や寄付金収入の増加を目指し、事業を継続していきたいと考えている。</p>
委員	<p>中心市街地にある商店会というのは、どのあたりの商店会を指しているのか。</p>
商工課	<p>中心市街地については、水戸駅北口の国道50号沿いから大工町にかけて、また、水戸駅南口周辺を指す。そのエリア内で、水戸市商店会連合会に加入している商店会は15程度になると思われる。</p>
委員	<p>本提案は、どのような外国人を対象にしているのか。</p>
提案団体	<p>水戸市に在住している約3,000人の外国人を対象としている。</p>
委員	<p>ホームページを開設し、PR活動を行うと良いのではないか。これからホームページを開設する予定はあるか。</p>
提案団体	<p>実行委員会でホームページを開設、運営するのは難しいと考えている。国際協力活動に関するホームページの中に、NGO団体の情報掲示板があるので、その掲示板を活用して、PR活動を行うことを検討している。</p>
提案団体 商工課	<p>〔発表：水戸ライフワーク メイキング事業〕</p>
委員	<p>本提案においては、事業に参加する高校生との関わりが非常に重要になると思う。現段階で、参加する高校の見通しはあるか。また、高校生を対象とするのであれば、茨城県の高校教育課との連携も検討するべきではないか。</p> <p>動画やWebによる情報発信は重要であると考えているが、伝達手段として、既存のマスメディアも有効であると思う。情報発信についてはどのように考えているか。以上の点について、伺いたい。</p>
提案団体	<p>メンバーの一人が、定時制高校の同窓会を務めており、その高校の参加は確実である。他の高校の参加、県の高校教育課との連携については、検討を進めたい。</p> <p>マスメディアについては、事業実施の段階でプレスリリースを行いたいと考えている。</p>
委員	<p>大学生を対象とする場合、学部によってはキャンパスが水戸市外にあるが、どのような対応を考えているか。また、作成する動画については、長編を1本作成するのか、あるいは短編を複数作成するのか、どちらを想定しているか。</p>
提案団体	<p>水戸市外にあるキャンパスに通学する学生については、対応を検討する。動画については、1分程度のものを複数本作成する予定である。独自のホームページを立ち上げ、そのホームページを通じて、情報発信したい</p>

	<p>と考えている。将来的には、業種別に動画を見ることができるようなホームページの構成にしたい。</p>
委員	<p>水戸市では、さまざまな動画をユーチューブにアップロードして、情報発信している。上映会を開催しなくても、既存のメディアを通じて情報発信をすることはできるのではないか。</p>
提案団体	<p>上映会については、単に動画を上映するだけでなく、インタビューへの協力者と参加した学生が話すことができる場にしたいと考えている。</p>
委員	<p>構成員の少なさや、活動歴の短さにやや不安を感じるが、本事業への参加者数の見込みはあるか。</p>
商工課	<p>メンバーのうち、3名が27年度に水戸市主催で開催したリノベーションスクールの修了生である。3日間のスクールの活動、その後の活動を通じ、茨城大学や常磐大学をはじめとする教育機関とのネットワークが構築されている。また、コミュニティの活性化や孤食の防止を狙いとするこども食堂の活動に携わっているメンバーもあり、ボランティアスタッフとして参加している高校生や大学生との関わりがある。提案団体は、新規の団体ではあるが、幅広いネットワークを構築している団体だと考えている。</p>
提案団体 農政課	<p>【発表：水戸の緑と野鳥の森整備事業】</p>
委員	<p>提案団体は、28年度の提案募集の2次募集に「みどりと野鳥の森」整備事業の提案を行ったが、当該提案は不採択であった。協働推進委員会が推薦しなかった理由として、本提案制度において、25年度から27年度にかけて実施した木戸房池ビオトープ整備事業との違いが明確でなかったという点にあるが、本提案と木戸房池ビオトープ整備事業との違いは何か。</p>
提案団体	<p>木戸房池ビオトープ整備事業は、木戸房池の水辺環境の整備を行い、生態系ネットワークの構築につなげていくことを目的とする事業であった。この事業を3年間実施したことで、周辺の地区会や子ども会等との協力体制が構築された。地元住民から、地域に存在する平地林を保全し、野鳥が生息することができる「野鳥の森」として整備したいとの声があがり、この事業を提案した。</p>
委員	<p>現地により多くの市民が訪れるよう、平地林の存在や、間伐の重要性等も含めて本事業のPR活動を行う必要があると思う。また、有機系廃棄物をペレット化して販売するなど、自主財源を確保できる仕組みづくりも必要だと考えるが、どのように考えているか。</p>
提案団体	<p>現在も、間伐材を利用して、鳥の巣箱等を作成している。今年1月には、小学生を対象とした鳥の巣箱づくりの体験会を実施した。その際は、無料で実施したが、鳥の巣箱づくりには、加工費等を含めて300円程度かかる。作成した巣箱を家庭へ持ち帰ったケースや、周辺の学校や街路樹へ設置したいとの意見もあったことから、財源確保に関する仕組みづくりも検討していきたい。</p>
委員	<p>発表にあった藤づるはどのように活用しているのか。</p>

提案団体	現在は、主に子ども達の遊具として活用している。
委員	今年度は林野庁や茨城県からの補助を受けているとのことだが、本提案と同内容の事業を既に実施しているのか。
提案団体	林野庁からの補助金は別事業に充当しており、茨城県からの補助金は現地の倒木処理に充当した。
提案団体 農政課	〔発表：水戸オーガニ蕎麦プロジェクト ～蕎麦栽培体験を通じた地域交流と健康生きがい推進事業～〕
委員	水戸市内でも耕作放棄地が増えていると思うが、面積はどの程度あるのか。
農政課	数字的なものは、本日持ち合わせていない。
委員	提案書中、蕎麦の栽培から調理まで体験することで食育を行うことができると記載があるが、子ども達に対して、どのような食育活動を実施しているのか。また、安心した事業参加を呼びかけることができるとは、具体的にはどのようなことか。
提案団体	自分で育てた作物を自分で食べるということが、食育の基本になると考えている。本事業では、有機栽培を実施し、安心安全な作物の栽培を行っている。事業参加については、28年度の参加者から、市との協働事業ということで安心して参加を申し込むことができたとの声があった。
委員	発表の中に、笠間焼での蕎麦ちよこづくりとあったが、水戸市との協働事業なので、水戸藩ゆかりの七面焼を活用してほしい。
提案団体	検討していきたいと考える。
委員	蕎麦打ち初級講座について、実施スケジュールでは2日間で4回実施するとあるが、収支計画書上では受講者は8名のみとなっている。どういうことか。
提案団体	初級講座については、個別指導による講座を予定しているため、受講者数を8名としている。
委員	28年度における参加者数の実績はどの程度か。
提案団体	28年度は、約20名が参加した。都市部からも参加者を呼び込むために、チラシを作成し、配布したが、都市部からの参加者はいなかった。今年度の反省を29年度事業に反映させたい。
委員	具体的には、どのような点が課題であると感じているか。
提案団体	広報活動が十分でなかったと思う。興味を持ってもらえるよう、水戸市ならではの地域資源を活用しながら、PR活動を行いたいと考えている。 28年度は、杉並区でPR活動を行ったが、十分なニーズ把握を行うことができなかった。

委員長	課題を自覚するだけでなく、その対応策を含め、事業を提案してほしい。
提案団体 文化交流課	〔発表：スマイル アース プロジェクト ～外国人も日本人も住みやすい地域をつくる～〕
委員	住んで良かった、住み続けたい地域をつくるということは、大変難しい課題であると思う。その課題に外国人の方が取り組んでいくうえで、どのような苦労があったか。
提案団体	やはり、言葉の問題が大きかったと思う。漢字を理解するのがなかなか難しいので、アンケート等を実施するにしても、ふりがなをふるなどのひと工夫が必要であった。
委員	日本人から、日本の生活習慣等についてアドバイスをもらう機会はあるか。
提案団体	日本人のメンバーもいるので、日本ならではの生活習慣等について、助言をもらっている。
委員	市国際交流協会でも様々なパンフレット等を作成しているが、国際交流協会と連携はしていないのか。
提案団体	グローバラキグループと支える会は、市国際交流センターを中心に活動している。パンフレット等は作成されているが、作成された発行物が、外国人のもとへ届いていないということが問題だと思う。自分達のネットワークを通じ、必要とする外国人のもとへ、作成された発行物を届けたい。
委員	提案内容に、交通ルールやトイレ、公園などに関する多言語表示の作成とあるが、既存のものの活用は考えていないのか。
提案団体	明文化されていない日本ならではのルールも含めて、外国人に理解してもらいたいと考え、多言語表示の作成を提案した。
委員	「ままなび」を翻訳するという提案があったが、翻訳に係る費用は、印刷製本費の30万円に含まれているのか。
提案団体	翻訳したものは、「ままなび」概要版とすることを予定している。この翻訳に係る費用は、消耗品費に計上している多言語表示看板に係る予算での作成を予定している。表記が誤っており、申し訳ない。
委員	「ままなび」日本語版は100ページ程度あり、概要版として作成するにしても、5万円では作成できないのではないか。
提案団体	「ままなび」概要版は、30ページ程度を想定している。幅広く配布できるように、紙質や作成方法によりコストダウンを図り、予算の範囲内でできるだけ多く作成したい。
委員	有名な公園等では、既に多言語表示がされているが、その他の公衆トイレや公園等で多言語表示を行うことは可能なのか。
文化交流課	公園における多言語表示であれば、公園緑地課や公園協会といった関係

	<p>機関との調整は必要になるが、実現可能性はあると思う。関係機関と調整し、どのように事業を展開していくことができるかということが29年度の課題であると感じている。</p>
提案団体 保健センター	<p>〔発表：初めてのママパパ応援事業〕</p>
委員	<p>秋にイベントを1回開催するとの提案だが、妊婦が出産に直面する時期は通年である。年に1度大きなイベントを開催するというより、年間を通じて、月に1回ずつ開催する方がよいのではないか。また、場所を確保して、妊婦がいつでも相談できる場所を設けるとよいのではないか。</p>
提案団体	<p>提案当初は、月に1回ずつの開催を想定していたが、市との話し合いを進めていく中で、まだ十分なニーズ把握ができていないことから、まずは秋に1回の開催として提案した。</p>
委員	<p>イベントの規模を縮小して、開催回数を増やすことでも、ニーズを把握することは可能なのではないか。年に1度の開催では、参加できる妊婦の数にも限りがあるので、イベントの規模や回数のあり方を検討してほしい。</p>
提案団体	<p>初めての提案ということでの不安、また、イベントを複数回開催する場合、予算の面でもクリアしなければならない課題が多く、秋に1回の開催としている。</p>
委員	<p>イベント開催時には、積極的なボランティアの活用を検討してほしい。</p>
委員	<p>28年度に花王からの助成金を活用して事業を実施しているようだが、それぞれの参加者数の実績はどのくらいか。</p>
提案団体	<p>「0歳あかちゃんサロン」、「マタニティサロン」は28年10月から開始し、それぞれ毎月1回開催している。「0歳赤ちゃんサロン」は、第1回目が3組、第2回目が7組、第3回目が15組、第4回が15組と参加者が増えてきている。「マタニティサロン」は、参加者が少なく、初回が1名、第2回目が2名、第3回目が2名、第4回が1名である。</p>
委員	<p>共働きの夫婦も増えているので、ワークライフバランスや男女平等といった視点も提案に含めてもよいのではないかと思う。</p>
提案団体	<p>市で主催しているハローベビークラスへも夫婦で参加する人が増えており、本イベントも夫婦で参加することを想定している。</p> <p>産後うつについては、誰もがなりうる可能性があるにも関わらず、自分の問題として考える機会ほとんどない。しかしながら、夫婦間で直接話しあうことに対するためらいもあると思うので、本イベントで先輩ママの話を聞くことで、産後の生活を考えるきっかけになればと考えている。</p>
提案団体 高齢福祉課	<p>〔発表：幸せシニアライフ講座〕</p>
委員	<p>受講者の男女比について、受講生の約8割が女性とのことである。男女</p>

高齡福祉課	<p>比の改善について、何か対策を考えているか。</p> <p>おそらく、市民センター等で実施している各種講座の受講生も女性が多い傾向であると思う。29年度は、高齢者支援センターなどの窓口を通じて、夫婦での参加を呼び掛けたいと考えている。</p>
委員	<p>料理教室の事例で、男性の呼び込みをはかるために「男性のための」と銘打った講座を開催したところ、男性の受講生が増えたという事例がある。29年度に参加者を募集する際には、そういった工夫をされるとよいのではないかと思う。</p>
委員	<p>アンケートの中に、受講時間に関する設問があるが、受講時間が長いという意見はあったか。</p>
高齡福祉課	<p>受講時間については、82%の受講生がちょうど良いと回答しており、受講時間が長いという回答はゼロだった。ちょうど良いとしている回答でも、さらに多くのテーマについて聞きたいとの意見があり、29年度は120分を2コマ実施するという提案にしている。</p>
委員	<p>28年度に各地区から挙げられたニーズは、どのようなものがあったか。</p>
高齡福祉課	<p>例えば、見和地区では、相続について聞きたいという意見が多く、石川地区では延命治療や尊厳死について聞きたいという意見が多かった。</p>
委員	<p>地区ごとに異なるテーマを設定しているとのことだが、地域差によるものなのか。</p>
高齡福祉課	<p>地域によって、基本的なニーズに大きな差はないと思うが、28年度においては、地区ごとの講義時間が90分1コマのみであり、講座内容を限定する必要があり、ニーズ把握のためのアンケートを実施した。</p> <p>(閉会の挨拶、報告会の公開について説明)</p>

上記に相違ないことを確認する。

委 員

委 員